

クルリンとほしぞらさんぽ 1月号

あけましておめでとうございます 今年もほしぞらさんぽを楽しみましょうね。5月に半影月食、8月にペルセウス座の流星群、10月には部分月食も、12月にはふたご座流星群。ちょっと数えただけでもイベントが並んでいます。気軽にほしぞらさんぽができるのが一番いいのですが、安全には気をつけてね。

惑星が5つも見えます

正月休みの夕暮れ時には、西から順に水星、金星、土星、木星、そして月がいて、その東に火星と、5つの惑星と月が並んで見えています。水星は1.1等、金星が-3.9等、土星0.9等、木星-2.4等、火星-1.2等と、西から東の空へ一直線に並んでいます。次ページの国立天文台の図は21時ごろなので、木星と火星しかありませんが…。晴れてほしいですね。

ただし水星と金星が見えるのは、日没から40～50分ほどの間ですから、空はまだ明るくて水星は見つけにくいと思います。でも金星が明るくてすぐに見つかりますから、その西側にあるはずの水星をよく探してみてください。スマホやデジカメで普通の風景写真のように写真を撮って後で見ると、水星も写っているでしょう。

冬の星空になりました

午後8時過ぎになると、東の空には冬の星座が見えています。オリオン座は知っていますね。

冬の大三角（オリオン座のベテルギウス、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオン、）がまだ低い空に見えています。大三角と呼ぶ割にはたいして大きくないかな？ プロキオンがあまり明るく見えませんのでしっかり探してみましょう。地平線のすぐ上で輝いているシリウスは-1.4等、地球からの距離は8.6光年、月や惑星以外では全天で一番明るい星ですね。

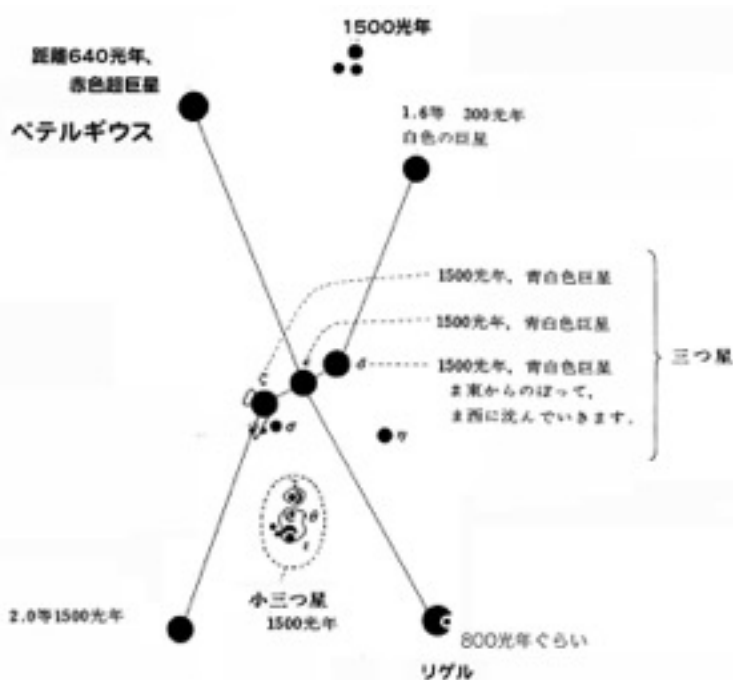
オリオン座の左側にはふたご座もいるし、ふたご座の北側（上側）にはぎよしゃ座の五角形と赤っぽく明るい火星が見えているし、おうし座は頭のとっぺん近く（天頂と言いますね）ですよ。9時過ぎるとオリオン座の足元にうさぎ座も見えてきますよ。皆さんが持っている星座早見盤には

火星がありませんので、次ページの国立天文台の星図で確かめてね。

冬の星座は南の空が中心ですので、時がたつと見え方が大きく変わります。カメラだと広い空が写せないのも、略図を書いておくといいね。1月にはどんな角度で見えていたか、3月になって、同じ時間帯にまた略図を書いてみると、季節による星座の見え方の変化が分かります。なんでもそうですが、観察する時にはメモや略図は大事です。

オリオン座

冬の星座はなんといってもオリオン座ですね。オリオン座の中心にある三ツ星（巨人オリオンのベルト）の斜め右下に見えているのが小三ツ星、その小三ツ星の真ん中がオリオンの大星雲M42です。肉眼では星のように見えているけれど、双眼鏡で見ると星ではなくて、ぼんやり広がっているなどわかります。1500光年も遠くにある宇宙のガスのかたまりで、その中で今も星が生まれているのだそうですよ。



オリオン座のベテルギウスが赤っぽく見えてるのは、この星がお年寄りの星で表面温度が約3000度まで下がってしまったためです。そしてベテルギウスはやがて超新星爆発を起こして、一時ものすごい明るさに、月より明るく輝くと期待されています。いつでしょうね？

夜空は動物園？

南を見ると、おおいぬ座、こいぬ座、うさぎ座、おうし座、はと座など、北の空を見るときりん座、おおぐま座、やまねこ座、こぐま座、りゅう座…と、冬の空には動物の名前の星座がいっぱい。あなたはいくつ見つけられるでしょうか。

1月はじめに流星群がありますよ

しぶんぎ座の流星群が1月4日に流れるはずですよ。4日の早朝ですから、3日の夜に見るようですね。月齢11と明るい月が一晩中じゃましていますから、あまり期待しないで、なんとなく見上げてみましょう。流星群の時には、ただひたすら空を見上げて、できるだけ広い空を見渡すようにします。

ところでしぶんぎ座なんて星座があったっけ？今では使われなくなっている星座の名前です。下の星図では、だいたいいりゅう座のあたりとってください。

